障害者虐待防止法は、病院と学校を通報義務の対象に

2015 年　障害者虐待防止法見直しに向けて

☆　保護室の監視カメラがとらえた看護師による暴行の現場　頚椎骨折した被害者は寝たきりの重度傷害を受け 2 年余り後に死亡、しかし警察は被害者死亡に至るまで被害届も受理しなかった（参考資料参照）

☆　精神病院、学校の障害者虐待事件は頻発している。精神病院については巻末資料参照

☆　精神病院の虐待事件が起きても加害者が処罰されることはまれ、処罰されたとしても組織的問題にメスが入れられることはない。虐待事件の起きた現場にそのまま精神障害者・障害者は収容され続けている

☆虐待を許容し見逃してきた組織、精神病院、施設はそのまま存続し続ける、これにメスを入れ改革をもたらすためには、抜き打ち視察が可能な独立した監視機関が必要

国連人権条約の 2 つの条約体は以下勧告している
2013 年 5 月　拷問等禁止条約委員会勧告
精神保健ケア
(h)　　独立した監視機関がすべての精神医療施設に対して定期的訪問を行うことを確保すること

2014 年 7 月　人権委員会 日本政府への勧告
(c) 精神科の施設に対して、虐待を有効に調査し罰し、被害者またはその家族に賠償を提供することを目的として、有効で独立した監視と報告体制を確保すること

障害者虐待防止法に、独立した抜き打ち査察のできる監視機関の設置を

目次

- ２０１４年７月　人権委員会ロビーイング報告・・・・・　１
- ２０１３年５月　拷問等禁止条約委員会勧告　・・・・・　２
- 松沢病院での暴行事件　・・・・・・・・・・・・・・・　３
- 精神科関連で発覚した主な問題事件　・・・・・・・・・・　５
- ポチと呼ばれていた男性　・・・・・・・・・・・・・・・　１２
- 日本の精神病院における傷害事件と虐待　・・・・・・・・　１３

資料

2014 年 7 月国連人権委員会ロビーイング報告

7 月にジュネーブの自由権規約の委員会である人権委員会において日本政府報告書の審査が行われた。

全国「精神病」者集団はパラレルレポートを出し、その附属文書には池原弁護士が代理人をしている精神病院保護室で暴行、そのご死亡した方の件を報告しました。（文末資料参照）

国際障害同盟（全国「精神病」者集団の入っている世界精神医療ユーザーサバイバーネットワークも構成団体）ジュネーブ事務所のご尽力で、委員の３名と個別に話すことができました。

人権委員会 日本政府への総括所見

精神障害者の人権に関わる部分のみ邦訳

非自発的入院

１７ 非常に多くの精神障害者が極めて広汎な要件で、そして自らの権利侵害に異議申し立てする有効な法的な救済手段なしに非自発的入院を強いられていること、また代替サービスの欠如により入院が不要に長期化していると報告されていることに、委員会は懸念を表明する。(7 条および 9 条)

国家は以下を行わねばならない

(a) 精神障害者に対して地域に基盤のある代替のサービスを増やすこと

(b) 強制入院は、最後の手段としてのみ必要最小限の期間、本人の受ける害から本人を守りあるいは他害を避けることを目的として必要で均衡が取れる時にのみ行われることを確保すること

(c) 精神科の施設に対して、虐待を有効に調査し罰し、被害者またはその家族に賠償を提供することを目的として、有効で独立した監視と報告体制を確保すること

障害者権利条約の基準から言うと、(b) は到底容認できるものではないが、それですら日本の強制入院制度は満たしていない基準であるということは事実

今回人権委員会が議論した自由権規約９条における一般意見草案においても (b) と同じ表現が取られ、一切の精神病院への強制入院を否定した障害者権利条約の水準から著しく後退している この点は見逃し難い

シャドーレポートの要約

１ OECD 諸国で人口比最大の病床数、平均在院日数も飛び出ている日本の精神病院

２ 強制入院もなんと入院患者の４割、諸外国の数倍の強制入院

さらに強制入院は増加し続けている

強制入院や入院を減らす政策は取られていない

３ 精神病院での虐待の数々、ほぼ毎年報じられている

これに対しては虐待を防止するための有効な監視機関がなく、警察も迅速有効に捜査しない例すらある

レポートから引用
11 万人が 5 年以上入院、3 万 6 千人以上が 20 年以上入院している。世界の精神病院病床の19%が日本にある。29 条による強制新規強制入院の一年あたりの数は 87 年の 2000 件以下から2012 年の 6685 件と３倍以上に増え続け、33 条による強制入院も 96 年の 84227 件から 12 年の 209547 件へと２.５倍以上増え続けている
改正精神保健法が国会で審議された時、田村厚生労働大臣は改正法で強制入院は減らないそして強制入院は必要な医療を受けるいい機会を提供すると宣言した。2013 年に障害者権利条約を批准したのが、政府には改正法により強制入院を減らそうという政策はない

レポートから引用
保護室隔離の数は 2004 年の 7673 件から 2011 年の 9283 件にと増加、身体拘束は 2004 年の5242 件から 9254 件へと増加している（６３０患者調査）
隔離と身体拘束の期間に関しての公式統計はないが、1 年以上身体拘束されている入院患者がいるとか 10 年以上保護室隔離されている患者がいると告白する精神科医もいる
隔離の 11%と身体拘束の 15%以上がなんと任意入院患者にされている（６３０患者調査 2011 年）

池原さんは大阪人権センターのサイト以下に掲載されている、虐待事件の年表も個別に話した委員にわたしました。
https://www.psy-jinken-osaka.org/?page_id=1155
来年は障害者虐待防止法の見直しの年です。この法律では病院学校は通報義務の対象から外されています。おびただしい虐待が精神病院で行われ、学校もまた例外ではありません。学校と病院を対象とするとともに、拷問等禁止条約委員会でも指摘され今回も指摘されているような、独立した抜き打ち視察のできる監視機関が必要です。
実効ある虐待防止法に向け全国「精神病」者集団は取り組んでまいります

全国「精神病」者集団のサイトにパラレルレポート及び勧告の全文が掲載されています
なお今回は夏のため航空運賃が高くなり、20 万円以上かかりましたが、カンパは 17 万円ちょっとで赤字となっております。
おこころざしのある方は今からでもカンパいただけたら幸いです、なおすでに頂いた方も含め、詳しい会計報告はお送りいたします
カンパ先　郵便振替口座　00170-3-36736　口座名義　山本眞理
よろしくお願い致します

2013 年 5 月　拷問等禁止条約委員会勧告

精神保健ケア
２２　精神保健施設に対して運用上の制限を確立している精神保健福祉法にもかかわらず、また締約国代表の提供した追加情報にもかかわらず、委員会は非常に多数の精神障害者と知的障害者が非常に長期間精神保健ケア施設に非自発的に留められていることに懸念を持たざるをえない。非人道

的で品位を汚す程度におよびうる行為である、独居拘禁、身体拘束そして強制医療が頻繁に行われていることを、委員会はさらに懸念する。精神保健ケアに関する計画についての対話の間に得られて情報を考慮しても、委員会は精神障害者の入院に対するオルタナティブに焦点を当てたものに欠けていることに懸念を持たざるをえない。最後に、拘束的な方法が過剰に使用されていることへの効果的で公平な調査がしばしば欠けていること、同様に関連する統計的データが欠けていることに懸念を表明する（2,11,13,16 条）

委員会は締約国に対して以下を確保するよう要請する

(a)　非自発的治療と収容に対して効果的な法的なコントロールを確立すること、同様に効果な不服申立ての機構を確立すること

(b)　外来と地域でのサービスを開発し収容されている患者数を減らすこと

(c)　精神医療および社会的ケア施設を含む自由の剥奪が行われるすべての場において、効果的な法的なセーフガードが守られること

(d)　効果的な不服申立ての機関へのアクセスを強化すること

(e)　身体拘束と独居拘禁が避けられ、あるいはコントロールのためのすべての代替手段がつきた時に、最後の手段として可能な限り最小限の期間、厳しい医療的監督下でいかなるこうした行為も適切に記録された上で、適用されること

(f)　こうした拘束的な方法が過剰に使用され患者を傷つける結果をもたらした場合には、効果的で公平な調査が行われること

(g)　被害者に対して救済と賠償が提供されること

(h)　独立した監視機関がすべての精神医療施設に対して定期的訪問を行うことを確保すること

松沢病院での暴行事件

都立松沢病院職員、患者へ暴力ふるう　東京・世田谷区

2014.2.28 20:35　　産経新聞

東京都世田谷区上北沢の都立松沢病院（８９０床、斎藤正彦院長）は２８日、精神科に勤務する５０代の男性看護師が、少なくとも入院患者４人に対し、「死ね」などの暴言をはき、顔を殴るなどの暴力をふるっていたと発表した。同病院は看護師を近く処分する方針。

同病院によると、男性看護師は昨年６月～今年２月１６日までの間、精神科入院病棟で、少なくとも男性患者４人（４０～７０代）に対し、「死ね」「何だこのやろう」と暴言を吐き、顔をたたいたり、布団を頭からかぶせて抑えつけるなどの暴行を加えた。看護師は「おむつ交換や、たんを吸引する際に、患者が言うことを聞かず、感情的になって手が出た」と説明しているという。

１４日まで実習していた看護専門学校の学生が、病院のアンケートに「スタッフが患者を殴る様子を見た」と記入し、病院側が１７日から開始した院内調査で発覚した。

斎藤院長は会見で「深くおわび申し上げる。今後、再発防止に努めていきたい」と陳謝した。

朝日新聞　2014 年 9 月 10 日

この記事の処分が 2 月に報道された暴行事件の加害者に対してされたものであるかは不明であるがいずれにしろ患者に暴力ふるって停職 15 日という処分である

都立病院 患者8人に暴力

看護師を停職処分

入院患者8人に暴力を振るっていたとして、都は9日、都立病院の男性看護師(51)を停職15日の懲戒処分にしたと発表した。そのほか都職員4人も懲戒処分にした。

都によると、看護師は今年2月15日、都立病院の入院病棟で、統合失調症の男性患者がおむつの交換時に抵抗したため、患者の口を押さえてほおを平手でたたいたとされる。ほかの入院患者7人にも暴力を振るっていたという。

男性主事(64)は4月、職場の歓迎会で飲酒してオートバイを運転し、自損事故を起こしたとして、停職6カ月とされた。通勤電車で女性の下半身を触ったとして5月に都迷惑防止条例違反（痴漢）容疑で逮捕された男性主事(45)は、過去にも痴漢で罰金刑を受けていたことが発覚し、停職3カ月となった。

■精神科関連で発覚した主な問題事件

民事訴訟や個別の医療過誤、患者同士の刑事事件は基本的に収録していない

発覚年	月	所在地	医療機関	主な内容
1954	1	千葉	中山病院	火災で患者 6 人が焼死
1955	6	千葉	式場精神病院	火災で患者 18 人が焼死
1957	3	新潟	**新潟精神病院**	新潟大が患者 149 人にツツガムシ病感染の人体実験
1968	3	高知	**近藤病院**	暴力団員が経営を握り、女性患者を次々暴行
1968	12	大阪	**栗岡病院**	院長が患者 13 人をバットで殴打、1 人死亡
1969	2	東京	小林病院	患者詰め込みをごまかすため監査の日に土建作業
1969	6	東京	北野台病院	患者 34 人が集団脱走。途中で 1 人自殺、1 人病死
1969	7	埼玉	南埼病院	都職員に贈賄して山谷からアル中患者をかき集める
1969	8	大阪	**安田病院**	看護人 3 人が男性患者をバットで殴り死なす
1969	8	神奈川	相模湖病院	職員水増し、「とばく愛酒療法」
1969	11	徳島	藤井精神病院	火災で患者 6 人が焼死
1970	5	奈良	当麻病院	作業療法名目で三交代の深夜労働でプラスチック加工
1970	6	栃木	両毛病院	火災で患者 17 人が焼死
1970	6	神奈川	藤沢中央湘南台病院	患者の半数 52 人に県が入院不要と退院命令
1971	2	宮城	小島病院	火災で患者 6 人が焼死
1972	5	東京	アヤメ病院	電気ショックや使役労働を嫌って患者 3 人が逃走。 さるぐつわされた看護婦死亡
1972	？	静岡	富士山麓病院	医師・看護師を保護室に閉じ込め患者 29 人が改善要求
1972	？	奈良	吉田病院	退院要求を無視して不当に長期入院
1972	？	福岡	中村病院	青年患者が院内で首つりしたが、全身に外傷
1973	4	北海道	北全病院	肝臓病患者に「精神病質」の診断でロボトミー手術
1975	3	福岡	大法山病院	院長が約 2 億円脱税
1975	7	神奈川	**横浜舞岡病院**	職員水増し、使役労働、患者の金の流用
1975	9	東京	八王子中央病院	職員不足でずさん医療
1977	2	三重	山本大仲病院	火災で患者 3 人が焼死
1980	1	大阪	**大和川病院**	看護人が男性患者に暴行、死なす
1980	9	姫路	高岡病院	ガラス店や鉄工所で作業療法と称して低賃金労働
1982	6	徳島	鴨島中央病院	患者 8 人が集団脱走、うち 2 人は連れ戻されたあと自殺
1984	3	栃木	**宇都宮病院**	患者が職員らのリンチで死亡。院長らが患者虐待、使役労働、無資格診療、違法解剖
1984	10	広島	青山病院	火災で患者、看護婦ら 6 人焼死
1985	4	群馬	厩橋病院	看護士が患者を殴って頭の骨を折る
1985	7	千葉	大多喜病院	入院患者の急死、違法入院など
1985	7	東京	吉沢病院	無資格の看護職員が注射やレントゲン

1985	10	東京	青梅成木台病院	乱脈経理、患者の金を理事長らが着服、不要入院
1986	5	東京	**青葉病院**	職員水増し、使役労働、違法拘束
1986	10	東京	根岸病院	自殺を病死に工作、処方箋の記入を部外に大量発注
1989	2	兵庫	県立光風病院	看護婦が患者 57 人の預かり金 150 万円を着服
1989	5	福岡	**河野病院**	違法な入院・拘束、看護士が電気ショック
1992	6	福岡	**河野粕屋病院**	電気ショックで 82 年に患者 2 人死亡。不当な強制入院
1993	2	大阪	**大和川病院**	男性患者が院内で暴行を受け不審死
1993	9	兵庫	湊川病院	男性患者が何者かに暴行を受けて重傷
1994	4	神奈川	**越川記念病院**	患者にエアガン乱射、違法拘束、職員水増し
1994	12	山形	米沢市立病院	精神科病棟の火災で女性患者がCO中毒死
1995	9	福岡	門司田野浦病院	職員水増し、2 億 2700 万円不正受給
1995	10	山形	光ヶ丘病院	職員水増し、7 億円不正受給、選挙不正
1995	11	北海道	市立小樽第二病院	精神科職員が患者の金を着服
1995	12	神奈川	皆川記念病院	男性患者がベッドに縛られたまま流動食を詰め窒息死
1996	2	北海道	札幌武田病院	医大学生が宿直、無資格者がレントゲン
1996	11	長野	**栗田病院**	院長が死亡患者の預金着服、脱税、患者虐待
1997	1	愛知	愛正病院	ベッド使用料など 1200 万円不当徴収、1 億円不正受給
1997	1	茨城	美浦 まきば 病院	職員水増し、6 億 5000 万円不正受給
1997	2	高知	**山本病院**	職員 2 人が女性患者の頭を壁に打ちつけ死亡
1997	3	大阪	**大和川病院**	暴行死、違法入院・拘束、電話・面会妨害、使役労働、職員水増し、24 億円不正受給
1998	7	香川	大川総合病院	精神科元職員 2 人が患者の預貯金を着服
1998	9	新潟	**国立犀潟病院**	違法拘束中の女性がノドに物を詰めて窒息死
1998	11	鹿児島	**奄美病院**	女性患者を庭木に縛る。ニセ医師が診療
1998	12	北海道	平松病院	保護室に男性患者 2 人を入れ、1 人が暴行死
1999	2	三重	**多度病院**	インフルエンザで 19 人死亡。超過収容、使役労働
1999	5	福岡	古賀第一病院	医師水増し、10 億円不正受給
1999	7	秋田	大曲佐藤病院	医師水増し、7 億 8000 万円不正受給
1999	11	福岡	松口病院	患者の退院・処遇改善請求を取り下げさせる
2000	1	佐賀	千栗サナトリウム	職員水増し報告
2000	3	東京	上妻病院	死亡患者の改印届を銀行に提出、職員水増し
2000	4	福岡	勝山病院	医師水増し、22 億円不正受給
2000	5	埼玉	埼玉医大	中 3 少女がビタミン併用を怠った輸液で死亡
2000	5	山口	県立病院静和荘	看護職員が患者の預かり金 164 万円を着服
2000	8	鹿児島	県立姶良病院	看護婦が入院患者の預け金約 40 万円を着服
2000	9	長崎	県立大村病院	看護士が勤務中に女性患者と性関係
2000	9	北海道	江別市立病院	精神科PSWが入院患者の預金 750 万円引き出す

2000	11	埼玉	**朝倉病院**	不要な中心静脈栄養、違法拘束、病室で手術
2000	12	山口	扶老会病院	12 人の措置入院の必要性に主治医が疑問
2000	12	愛知	岩屋病院	外出時の介助料、入浴料など不当徴収
2001	1	東京	宝喜クリニック	女性を拘束して病院へ搬送中に窒息死（業過で有罪）
2001	2	大阪	真城病院	看護士がゴルフクラブで頭を殴るなど暴行
2001	3	福岡	新門司病院	事務長が患者の金や市の補助金など 9500 万円着服
2001	8	福岡	中間保養院	職員水増し、不正受給、超過収容
2001	8	大阪	**箕面ヶ丘病院**	職員水増し、違法拘束、外出制限、電話妨害
2001	12	東京	井之頭病院	保護室で抑制中の男性患者が窒息死
2001	12	山口	県立病院静和荘	女性患者の不審死届けず。両親の面会を半年拒否
2002	1	愛知	豊明栄病院	男性入院患者が何者かに扼殺。違法な院内作業
2002	4	富山	浜黒崎野村病院	指定医の診察なく隔離、カルテ改ざん
2002	7	和歌山	**和歌浦病院**	看護助手が男性患者を殴打して死なせる
2002	8	栃木	宇都宮病院	O157 に 123 人が集団感染、9 人死亡
2002	10	福島	**県立会津総合病院**	保護室に複数収容、電話面会制限、不正請求
2002	12	東京	上妻病院	任意入院の女性患者の退院を不当に拒否
2003	4	福岡	**松口病院**	任意患者の退院拒否、電話制限、違法拘束
2003	5	山梨	三生会病院	心臓に持病の男性患者に電気ショック療法、死亡
2003	8	福島	**福島松ヶ丘病院**	作業名目で清掃作業、違法拘束、超過収容
2003	12	岐阜	岐阜県の6病院	入院患者に掃除や配膳などの院内作業、県も容認
2004	1	茨城	県立友部病院	閉鎖病棟の入院患者が抜け出し凍死。鍵かけ忘れか
2004	2	富山	奥田病院	院長が 7740 万円の脱税で起訴
2004	6	高知	海辺の杜ホスピタル	准看護師が入院患者 8 人の預金 643 万円を引き出す
2004	10	山形	土屋病院	無資格の理事長や職員らが 4 年間、薬を調合
2004	11	東京	都内の病院（複数）	身体拘束によるエコノミークラス症候群で 5 年間の 4 人死亡
2004	11	埼玉	**西熊谷病院**	職員が女性患者に暴行、男性患者の窒息死届けず、不正請求
2005	2	長崎	長崎県の病院	看護師を患者への暴行で容疑で逮捕
2005	4	愛知	安田メンタルクリニック	女性の患者の胸をさわったとして院長逮捕、有罪確定
2005	7	福岡	行橋厚生病院	看護師 2 人が入院中の小 5 男児を殴って負傷させる
2005	8	山口	三隅病院	薬剤師が向精神薬約 150 錠と注射器を外部へ横流し
2005	11	大阪	心斎橋みやまえクリニック	医師がうつ病の女性患者の家に上がり、体を触り逮捕
2005	12	北海道	市立函館病院	精神保健福祉士が患者の金 30 万円を盗んだ疑い。本人否認で釈放
2006	1	岡山	瀬戸内市の病院（廃）	不当な漫然長期入院・使役労働。弁護士会が人権救済勧告
2006	4	岩手	都南病院	元通院患者の女性に医師が睡眠薬を飲ませ、準強姦で逮捕、有罪

2006	6	岩手	盛岡観山荘病院	経営職員解雇で団交拒否。地労委が不当労働行為と認定
2006	6	宮崎	都城新生病院	閉鎖病棟で火災、男性 1 人が死亡
2006	6	岩手	本舘病院	女性患者が預けた預金通帳と印鑑で事務職員が 890 万円を着服
2006	7	埼玉	埼玉江南病院	准看護師が患者に暴行・負傷。法務局が勧告。傷害で略式命令
2006	7	奈良	県立医大	精神科医が患者 91 人の情報を入れたパソコン紛失
2006	7	富山	高岡市	高岡市の公費助成患者 1500 人の情報がネットに流出
2006	8	京都	岩倉病院	患者の金数百万円が不明。女性看護師長が 30 万円返還
2006	9	香川	三船病院	5 階病棟の床下に白骨死体。02 年 6 月に行方不明の女性患者
2006	9	東京	国立・武蔵病院	准看護師が患者のキャッシュカードを盗んで 316 万円を引き出し、逮捕
2006	9	新潟	県立精神医療セ	使途不明通帳が 2 冊（計約 77 万円分）が見つかる
2006	10	東京	成増厚生病院	保護室で患者が放火、女性患者 1 人死亡、4 人重傷。保護室カギあけず
2006	10	千葉	国立・国府台病院	入院費など計約 436 万円を着服した係長が着服、懲戒免職
2006	10	広島	国立・賀茂精神医療セ	看護師が入院患者 8 人の預かり金の計 78 万余円を着服、懲戒免職
2006	11	千葉	国立・国府台病院	PTSDの女性患者を男性医師が殴る。民事判決で認定
2007	1	東京	**東京クリニック**	説明を求めた女性患者の頭を院長が壁にたたきつけ負傷。傷害で逮捕、有罪
2007	1	東京	国立・武蔵病院	患者 1688 人分の個人情報が入った私有パソコンを医師が紛失
2007	2	千葉	ぶる一くろす癒海館	無届けの介護施設。オリに閉じこめる、手錠をかけるなど虐待
2007	2	埼玉	東松山病院	職員水増しで不正請求。男性看護助手が患者に暴力
2007	4	千葉	式場病院	ノロウイルスに 76 人感染。2 人死亡のうち女性 1 人は身体拘束中に嘔吐
2007	5	宮城	県精神医療セ	看護師が患者 2 人の預金 312 万円を着服、懲戒免職
2007	7	愛媛	松山記念病院	患者 13 人からの預かり金 975 万円を男性職員が着服、懲戒解雇
2007	9	青森	青森市立浪岡病院	精神科の入院料 2189 万円を過剰請求、看護師配置の計算ミス
2007	10	東京	京成江戸川クリニック	リタリンの無資格処方で院長と事務員を逮捕（院長は無罪判決）
2007	11	東京	東京クリニック	リタリンを無診察・無資格で処方した容疑で捜索。のち院長を書類送検
2007	11	福井	公立小浜病院	救急搬送の男性に鎮静剤投与後、心肺停止。1 年後死亡
2007	12	兵庫	宝塚三田病院	女性患者に診察なしで抗うつ剤を宅配。県が改善指導
2007	12	群馬	**武蔵野病院**	男性看護師が男性患者の頭をけり、死なす。傷害致死容疑で逮捕。以前から暴行
2008	4	静岡	藤枝駿府病院	肺炎球菌で院内感染 64 人、患者 4 人が死亡。保健所報告は発生の約 4 週間後

2008	6	石川	十全病院	患者ら 2730 人の個人情報がネット流出。職員がメモリーで持ち出し
2008	6	千葉	初石病院	火災で保護室の患者が煙を吸い死亡。看護師がカギ開けず。別の患者を放火で逮捕
2008	7	京都	モリタニクリニック	リタリン大量に使途不明。院長を近畿厚生局が書類送検（起訴猶予）
2008	8	鳥取	米子病院	男性入院患者の顔を殴ったとして看護助手を暴行容疑で書類送検（起訴猶予）
2008	10	大阪	大東市の診療所	向精神薬エリミン約 20 万錠が不明。暴力団に売った元事務長を近畿厚生局が書類送検
2008	11	千葉	**しのだの森ホスピタル**	男性入院患者の腕をねじ上げ、骨折させたとして看護師を傷害容疑で逮捕、1 審実刑判決
2008	12	東京	東京クリニック	元患者につきまとい、脅迫メール。元院長をストーカーと脅迫容疑で逮捕
2008	12	大阪	**貝塚中央病院**	違法拘束中の男性患者が重体、転院先で死亡。理事長らがカルテ改ざん
2009	3	大阪	青葉丘病院	男性患者が保護室内で 3 月に不審死 （外傷性の腸管破裂）
2009	4	奈良	精神科医、薬剤師	処方せんなしで睡眠薬を知的障害者らに販売。近畿厚生局が書類送検
2010	3	岡山	県精神科医療セ	医療観察法による入院患者 2 人の入院継続手続きを忘れる
2010	7	埼玉	桶川市の診療所	精神科医を準強制わいせつ容疑で逮捕。医療行為と誤信させ、10 代女性の体を触る
2010	9	岡山	**倉敷森下病院**	カルテに入院理由の記載なし、任意入院患者に外出許可願などで改善命令。11 年 2 月に入院制限命令。6800 万円の診療報酬不正受給で返還要請
2010	10	山形	山形県の9病院	日常生活サービス費用を、使途が不明確な名目や同意書なしで徴収
2010	11	秋田	鷹巣病院	インフルエンザで入院患者 8 人死亡
2011	2	大阪	聖和錦秀会	精神科の訪問看護で不正請求。8000 万円余の返還請求
2011	3	北海道	帯広厚生病院	精神科病棟で酸素吸入器のバルブが閉まり、女性患者死亡。4 月にも同種事案（影響なし）
2011	3	福岡	大塩メンタルクリニック	院長が架空診療の処方せんで向精神薬 12 万錠を入手、知人に譲渡。保険登録取り消し
2011	8	石川	桜ケ丘病院	女性事務職員が患者 37 人の口座などから約 1 億 8 千万円を着服。10 月逮捕
2011	10	静岡	ﾋｭｰﾏﾝ・ﾒﾝﾀﾙ・ｸﾘﾆｯｸ	無資格のニセ心療内科医が診療所。44 歳女を逮捕
2011	12	熊本県	宇城市の精神科病院	看護師が入院女性に強制わいせつ容疑、書類送検
2011	12	愛知	岡崎医療刑務所	看守部長が受刑者に暴行、戒告処分

2012	1	栃木	県立岡本台病院	看護師が患者 4 人に頼まれた買い物のお釣り 39 万円を着服。停職処分
2012	2	岐阜	岐阜病院	肺炎悪化の 82 歳女性に点滴ミス。病院が遺族に謝罪
2012	3	新潟	**県立精神医療セ**	男性患者が胸を骨折。第三者委の調査で看護師 8 人が暴力をふるった可能性。県が告発。容疑者不詳で書類送検
2012	4	香川	県立丸亀病院	精神科の外来患者 4 人分のカルテを誤って焼却処分
2012	5	長崎	長崎県	措置入院の病状報告遅れ。07～11 年度に県精神医療セなど 6 病院 20 件
2012	5	茨城	ホスピタル坂東	看護師数ごまかしなどで不正請求、保険指定取り消し
2012	7	千葉	成田病院	入院患者 38 人の預け金計約 270 万円を男性看護師が着服、懲戒解雇
2012	9	新潟	長岡保健所	患者 2 人の医療保護入院届を紛失
2012	9	東京	高島平中央総合病院など	ニセ精神科医が東京、神奈川、長野、千葉 13 か所で健康診断。医師法違反で男を逮捕、起訴
2012	10	千葉	ふるさとホーム白浜	精神障害者グループホームで理事長が暴力。傷害容疑で逮捕
2012	10	愛媛	はまぼうふう	医療法人清和会のケアホーム・グループホームの女性職員が入所者 9 人の 150 万円着服
2012	10	大阪	**さわ病院**	認知症の男性患者が布団にくるまれ窒息死。看護師を解雇、逮捕。逮捕監禁致死容疑で起訴
2012	11	埼玉	新堀クリニック	思春期診療の医師を男子中学生に対する準強制わいせつ容疑で逮捕
2012	10	長崎	心サポートクリニック	ニセ医師が心療内科で診療。医師法違反・診療報酬詐欺容疑で逮捕・起訴
2013	3	奈良	クリニックやすらぎ八木診療所	自立支援医療費 100 万円不正受給で県が取り消し処分
2013	5	群馬	**西毛病院**	入院患者が殴られ死亡。看護助手の男を傷害致死容疑で逮捕・起訴。初公判で事実認める
2013	5	福岡	産業医大病院	睡眠導入薬の大量服用で運ばれた女子高生に治療せず死亡。医師を業過失致死容疑で書類送検
2013	6	愛媛	ドリーム工房	障害者支援就労給付費の不正受給で「アキラ産業」のサービス事業者指定取り消し
2013	6	佐賀	虹と海のホスピタル	男性准看護師が入院患者の預金を 33 万円着服
2013	9	神奈川	国立病院機構神奈川病院	精神科病院から虫垂炎症状で搬送された統合失調症の女性患者の入院加療を拒否
2013	10	宮城	光ヶ丘保養園	看護師7人を業務上過失致死容疑で書類送検。男性患者（86）に水分補給などをする際、手足を押さえつけて腰椎を脱臼骨折させ、出血性ショックで死亡させた疑い

2014	3	東京	**都立松沢病院**	50歳代の男性看護師が、入院患者4人以上の顔をたたくなど暴力。「死ね」など暴言も。都が発表
2014	3	佐賀	嬉野温泉病院	精神療養病棟で火災。入院中の女性患者 2 人が死亡
2014	6	全国		統合失調症薬ゼプリオン、半年で32人の死亡例
2014	8	佐賀	肥前精神医療センター	女性患者に暴行して骨折させた疑いで男性看護師を逮捕。否認。処分保留で釈放

精神科で発覚した主な虐待人権侵害事件 (この年表は原昌平氏作成)

「ポチ」と呼ばれていた男性（５９）に会った。様々な人権侵害 が明るみに出た大阪府箕面市の精神病院「箕面ヶ丘病院」に入院 していた患者だ。大勢が出入りするデイルームの一角に、ひもで つながれたまま寝起きし、用を足すのもポータブル便器。そんな 違法拘束を１０年近く受け、昨年８月に府の抜き打ち調査で問題 が発覚、ようやく転院した。同病院は患者全員の転退院が終わり、 １日、保険医療機関の指定取り消し処分を受けたが、奪われた歳 月と人間の尊厳には何の償いもない。（科学部　原昌平）

◆半径２メートルの生活

窓の鉄さくから腰に延びた二メートルほどの白い布ひも。その届く範囲が男性の動ける空間のすべてだった。リノリウムの床に畳一 枚と布団が敷かれ、食事は便器のふたの上で食べた。ひもが外され るのは、たまの入浴と行政の立ち入り調査の時ぐらい。それでも温 和な男性に、他の患者は「ポチ、元気か」と冗談半分で声をかけた。

入院は二十数年前。精神分裂病との診断だった。法的には退院も 外出も自由な任意入院なのに、「乾電池や鉛筆など目についた物を口 に入れる」という理由でつながれていた。両腕が動かせない拘束衣 を着せられた時期もあったという。

拘束には、精神保健指定医の診察とカルテ記載が法律上欠かせな いが、何の記録も残っていない。だから違法拘束の期間も正確には つかめないが、関係者によると、１０年前に異物を飲んで開腹手術 を受けたあとは続いていたという。

＜2002 年 2 月 4 日大阪読売新聞夕刊＞

日本の精神病院における傷害事件と虐待

池原毅和　　弁護士

１　　死に至った傷害事件についてのケース報告

２０１２年１月１日、保護室に隔離されていた強制入院中の３０歳の患者が精神科看護 師に頭を蹴られ踏まれたと。彼の頸部の骨が折れた。彼は首から下のからだが麻痺してしま った。２０１４年４月２７日に彼はこの怪我により心肺停止状態になり、翌日死亡した。

彼は統合失調症と診断されていた。彼は２０１１年９月１５日に強制入院させれ、９月２２日に保護室に隔離拘禁された。その後４人部屋に入れられていたにもかかわらず、９月２９日から１２月５日まで身体拘束されていた。そしてまた１２月５日に保護室に隔離された。

１月１日、おむつを替えるために２人の精神科看護が保護室に入った。彼を抑えこもう としたが彼が抵抗したようだった。彼はもがいて彼の右足が二人の打ち一人の看護師の腹部 にあたった。看護師は立ち上がり彼の頭部の方に歩いて行き、彼の頭部をけって踏みつけた。

彼は抗精神病薬の重大な副作用ジストニアに苦しんでいた。彼の首はジストニアのために収縮していた。顎を引いたような姿勢になっていた。看護師により彼は顔をあげさせられ踏みつけられたようである

一人の看護師が顔を踏みつけたようである。もう一人は彼の下半身を押さえつけていた。 彼の頚骨はおれた。

１月２日彼の両足は麻痺した。彼は前のように保護室を歩きまわらなかった。彼は排尿障害を発症したようであり、　、これは頚骨損傷があると診断されうる典型的な症状の一つである。しかし病院職員は誰一人として彼の頚骨損傷の可能性について気にかけなかった。

１月３日彼の上肢下肢全てが麻痺した。彼は腱反射を失い、膝の反射アキレス腱の反射を失った。午前中遅くなってから彼は救急車で一般病院に移送された。移送先の一般病院の 整形外科医は彼が頚椎損傷であり死の危機にあると診断した。彼は ICU で治療された。

１月４日、彼は心肺停止状態になった。幸い回復したが、その後気管切開と気管カニューレ、そして経管栄養補給が必要となった。

体重は 70 キロあったのが次第に減少し 30 キロ以下になり衰弱していった。

２０１４年４月２８日再び心肺停止になり、彼は 36 歳で死亡した。彼はこの障害事件以降ベッドから動くことすらできないままだった。

彼と家族は２０１３年に精神病院を告訴した。被告は看護師は彼の強い抵抗を止めようとして単に頭に足をおいただけであると弁明した。被告は、患者は重篤な統合失調症により働くことはできなかったのだから収入についての賠償は要求できない、また同様に重篤な統合失調症ゆえに仮に怪我をしなかったとしても退院することはできなかったのだから、今後の病院の費用についても賠償要求できないと主張した。

この件を扱う裁判所は裁判の公開を躊躇した。警察は一度看護師を尋問したが、警察の捜査はほとんどされていなかった。権限のある当局はこのケースを調査しようとすらしなかった。

保護室内の監視カメラによって、看護師が患者の頭を蹴り踏みつけている状況がビデオに 撮られていた。写真の１から２を参照。そして 2 人の看護師がけって踏みつけた直後患者の顔の血を拭こうとしていたことが映されている。
患者をみた整形外科医と医学部の整形外科教授の 2 人の整形外科医は一致して、このビ デオを見て、1 月 1 日から 3 日まで保護室内部において他の原因は発見できず、看護師によって蹴られ踏みつけられて頚椎損傷が生じたと判断した。

日本では精神病院における傷害事件や虐待がたくさん起こっている。国際法律家委員会が 80 年代後半と 90 年代に来日し、日本政府にたいして精神障害者の人権の保護と促進に対して効果的な行動を取るべきと勧告した。しかしそれ以降も精神病院における傷害事件と虐待 の数は減っていない。

（山本眞理仮訳　2014 年 7 月　国連人権委員会へ提出した全国「精神病」者集団パラレルレポートの添付文書　写真は２枚省略）

保護室の監視カメラがとらえた暴行の現場　頭を蹴飛ばしている

頭が踏みつけられている

2014 年 10 月 14 日

全国「精神病」者集団

〒164-0011　東京都中野区中央 2-39-3　絆社気付

電話　080-1036-3685

FAX　03-5942-7626

メール　contact@jngmdp.or